NIHONBASHI RIVER WALK

＜News Letter＞

報道関係者各位

さあ、街から未来をかえよう
三井不動産
MITSUI FUDOSAN

2026年11月20日

一般社団法人日本橋リバーウォークエリアマネジメント
三井不動産株式会社

NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM 第七弾

「日本橋一丁目東地区第一種市街地再開発事業」工事用仮囲いを活用したアート作品の展示を開始

日本橋リバーウォークの回遊と賑わいを創出するアート作品を掲出

本ニュースレターのポイント

- 日本橋リバーウォーク（※1）の回遊や賑わいを創出する工事用仮囲い装飾プロジェクト「NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM」の第七弾として、中央区の日本橋一丁目東地区第一種市街地再開発事業の工事用仮囲いに、アート作品を掲出。
- アソビシステムが展開するクリエイターレーベル・Akaku（エーカク）所属の人気クリエイター4名が集結。『完璧な未完成。』をコンセプトに、街と人がつながる参加型アートウォールが登場。

※1：日本橋リバーウォークとは、親水空間と川沿い歩行者ネットワークを中心に、5つの再開発区域とその周辺一帯を指すエリア名称です。



「日本橋一丁目東地区第一種市街地再開発事業」の工事用仮囲い装飾

一般社団法人日本橋リバーウォークエリアマネジメント(以下「日本橋リバーウォークエリアマネジメント」）は、日本橋リバーウォーク内の回遊や賑わいを創出する工事用仮囲い装飾プロジェクト「NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM」にて、日本橋リバーウォークエリアマネジメントの事務局である三井不動産株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：植田俊、以下「三井不動産」）と連携し、第七弾となる作品掲出を行います。

本企画では、日本橋リバーウォークで進行する大規模再開発事業の仮囲いを活用してアート作品を掲出。各地区の仮囲い装飾を巡りながら、エリアの魅力を知り、街歩きをお楽しみいただけます。第七弾は「日本橋一丁目東地区第一種市街地再開発事業」の仮囲いでの実施となります。

この度の仮囲いの活用を通して大規模工事期間中における街の賑わいを創出することで、魅力ある日本橋の街づくりをより一層推進してまいります。



5つの再開発エリア
（NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM実施予定地区）

日本橋一丁目東地区第一種市街地再開発事業　解体工事用仮囲い実施概要

作品名	『完璧な未完成。』
掲出場所	東京都中央区日本橋一丁目・日本橋小網町・ 日本橋本町一丁目
掲出期間	2026年11月17日～2027年7月中(予定) ※一部2027年3月中撤去予定
主 催	一般社団法人日本橋リバーウォークエリアマネジメント （代表理事　山本 徳治郎） 日本橋一丁目東地区市街地再開発組合 （理事長　　木村 平右衛門）



「NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM」第七弾では、「Akaku」所属の人気クリエイター4名、新水・火曜び・ABEchan・ヨシダナツミによる作品を掲出します。4名がそれぞれの個性を発揮しながらも、仮囲い全体がひとつの物語としてつながるよう、共通コンセプト『完璧な未完成。』を軸に制作した、街と人がつながる参加型アートウォールです。

永代通り・昭和通り・本町一丁目・小網町付近の仮囲いを舞台に、日本橋一丁目東地区が育んできた歴史や文化、地域固有の魅力を発信します。かつて人や物資が行き交い、まちの発展を支えてきた「水辺」「舟運」、そして「郵便発祥の地・江戸橋」といった歴史的文脈を現代的な視点で再解釈し、まちの過去と未来をつなぐメインビジュアルを展開します。本町一丁目・小網町側のC・D街区には、4名の作品を切手風のフレームに収めたスポットも登場します。

仮囲いの随所には、和傘を差す江戸の人や飛脚、風船を追いかける少女、舟に乗る人々など、絵の中の人物を等身大で描いたフォトスポットを設けます。作品の隣に立つと、歩行者自身が作品の世界観に溶け込み、日常の通行空間に新たな発見や賑わいが生まれます。

本作は、描き手が筆を置いた時点では完成しません。通りがかる人々の参加と共創によって完成していく“未完成”のアートウォールです。再開発という変化の過程で現れる仮囲いを、街の日常と新たな発見をつなぐ場として再解釈し、これからの日本橋への期待を喚起します。

■メインビジュアル



■フォトスポット



■「Akaku」について

アソビシステムに所属するイラストレーター、アニメーター、カリグラファーなど「描く」ことを軸として活動するクリエイターレーベル。クリエイターの感性と表現を拡張し、新たな価値を創造する。

マネジメントに留まらず、展示企画やプロダクト開発などを通して、日本のイラストレーションカルチャーを国内外に発信していく。

【アーティストプロフィール】 1．新水 / Niina　イラストレーター



プロフィール：
瞬間を切り取るような透明感のあるイラストを描く。書籍やMV、広告を中心にイラスト制作やデザイン提供など幅広く活動中。

制作背景：
日本橋の川沿いの景観と、そこから生まれるアクティビティを流れるように描くことで、人や時間、そこに集う人々の想いの繋がりを表現しました。水辺を中心に多様な営みが重なり合い、新たな風景や交流を生み出していく、日本橋の川沿いならではの魅力を1枚のイラストに込めています。





【アーティストプロフィール】 2．火曜び / Tuesday　イラストレーター



プロフィール：
現代の今っぽさと、80・90年代のノスタルジーを感じるちょっぴり懐かしいニューレトロな絵柄が魅力。アパレルブランドとのコラボやCDジャケットのデザイン提供など幅広く活動中。

制作背景：
日本橋の川沿いで「過去・現在・未来」をテーマに、さまざまな時代の人々が行き交う様子を楽しく描かせていただきました！長い歴史のなかで街の景色や人々の暮らしも少しずつ変わり、今日の日本橋を作ってきたのだと思うと、すごく素敵だなと感じています！これまでの歴史を大切にしながら、新しく変わっていくこの場所でたくさんの笑顔やワクワクするような思い出が生まれたらいいなという思いを込めました。









【アーティストプロフィール】　3．ABEchan　イラストレーター



プロフィール：
POP ART、美人画、80s～90s、映画、COFFEE、音楽などと自らが影響を受けた様々なカルチャーを自分なりに構成。手描きでのペン入れ、その後にグラフィック表現を施す。アパレル、広告、美容室、飲食店、様々な媒体にデザインを提供し、幅広く活動中。

制作背景：
過去・現在・未来を融合させた新しい空間を想像し自分なりの視点で描いてみました。現代人、未来人や過去からきた人を想像し、日本らしい文化、伝統を感じさせながらも未来への広がりや可能性を表現しました。昔からの建物や現代のビルなど、これから生まれる新しい価値が交差することで、見た人が未来にワクワクできるような世界観を目指しました。過去・現在・未来の表現は難しかったですが、楽しく表現できました。





【アーティストプロフィール】　4．ヨシダナツミ / Natsumi Yoshida　イラストレーター



プロフィール：
どこか懐かしさを感じるタッチと色合いでピースフルな作品を描く。企業広告を始めとし、ゲームやアニメ作品とのコラボレーションイラストなど幅広く活動中。

制作背景：
郵便発祥の地であることから「手紙」と、「川沿い」というテーマで今回描かせていただきました。私が子どもの頃は手紙の文化が身近で、中学のとき手紙交換が流行ったり、バレンタインでもチョコレートに手紙を添えていました。今でもイベント等でファンの方からお手紙をいただくこともあり、いつになってもそのしたためることのドキドキ感、受け取った時の嬉しさは変わらずあります。このイラストでは封筒をフレームに見立て、様々な場面の人から人へと想いが届く様子を描きました。時代は流れても変わらないそのときめきを感じてもらえましたら幸いです。





参考情報①　日本橋一丁目東地区第一種市街地再開発事業について



働くだけでなく、滞在・居住機能も備えた日本橋へ。国際的なビジネス拠点として、江戸橋南側に2棟の高層棟が並びます。国家戦略住宅やサービスアパートメント、各種生活支援施設を備え、居住機能も充実。川沿いには約2,000㎡の広場や緑地、眺望テラスが生まれます。横断デッキにより、日本橋一丁目中地区（東京ミッドタウン日本橋）ともつながります。

［プロジェクト名］
日本橋一丁目東地区第一種市街地再開発事業

［区域面積］
約3.6ha（都市再生特別地区）

［用途］
事務所、店舗、住宅、カンファレンス、
サービスアパートメント、生活支援施設

［竣工］
A・B街区：2034年度（予定）、
C・D・E街区：2038年度（予定）

［参画ディベロッパー］
三井不動産株式会社、東急不動産株式会社、
日鉄興和不動産株式会社、三井不動産レジデンシャル株式会社

（パース）日本橋一丁目東地区第一種市街地再開発事業 完成イメージ
※画像はイメージであり、実際の計画詳細を示すものではありません。

参考情報②　日本橋リバーウォークについて

現在5つの再開発事業（※2）が推進される日本橋川沿いエリアでは、再開発区域とその周辺一帯を「日本橋リバーウォーク」（※3）と称し、官民・地域が連携して街づくりを進めております。今回仮囲い装飾が行われる日本橋一丁目東地区第一種市街地再開発事業も、5つの再開発事業のうちのひとつです。



5つの再開発エリア

※2：「5つの再開発事業」とは、八重洲一丁目北地区第一種市街地再開発事業、日本橋一丁目１・２番地区第一種市街地再開発事業、日本橋一丁目中地区第一種市街地再開発事業、日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業、日本橋一丁目東地区第一種市街地再開発事業を指します。

※3：詳細は以下リンクをご参照ください。
公式ホームページ：https://www.nihonbashiriverwalk.jp/
プレスリリース：https://www.nihonbashiriverwalk.jp/wp-content/uploads/release_20250611.pdf

参考情報③　日本橋リバーウォークエリアマネジメントについて

2025年4月、日本橋リバーウォークで一体感ある街づくりを進めるため、法人組織「一般社団法人日本橋リバーウォークエリアマネジメント」が発足しました。新たに誕生する様々な空間の利活用と情報発信を行うことで、エリア価値の向上を目指します。

NIHONBASHI RIVER WALK

今般実施する仮囲い装飾プロジェクトのほか、日本橋リバーウォーク公式ホームページの運用や、街づくりプレゼンテーション拠点「VISTA」との連携を通して、日本橋リバーウォークに関する情報発信等を行い、一帯の賑わいづくりに貢献してまいります。





■公式ホームページ：https://www.nihonbashiriverwalk.jp/
■一般社団法人日本橋リバーウォークエリアマネジメントを構成するメンバー(順不同)
日本橋一丁目中地区市街地再開発組合、八重洲一丁目北地区市街地再開発組合、日本橋室町一丁目地区市街地再開発組合、日本橋一丁目東地区市街地再開発組合、日本橋一丁目1・2番地区市街地再開発組合

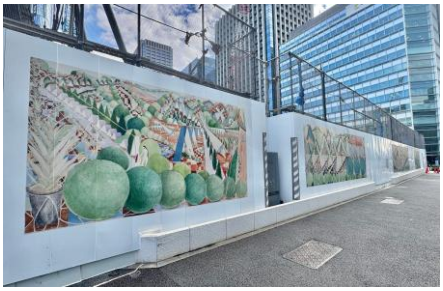
参考情報④　「NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM」他エリアの装飾について

2025年7月から始動した「NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM」は、第一弾を日本橋一丁目中地区市街地再開発事業、第二弾を八重洲一丁目北地区市街地再開発事業、第三弾を日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業の仮囲いでアート作品を掲出いたしました。第四弾を日本橋一丁目１・２番地区第一種市街地再開発事業、第五弾を八重洲一丁目北地区再開発事業、第六弾を日本橋室町一丁目地区再開発事業の仮囲いでアート作品を掲出中です。

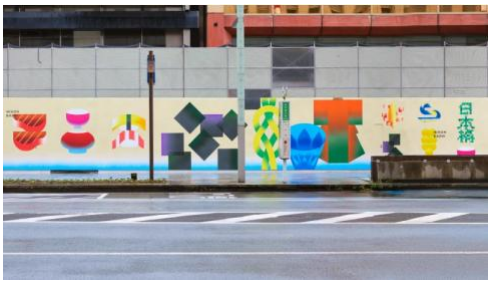




日本橋一丁目中地区市街地再開発事業（2025年7月～2026年1月）
ナカミツキ『Nihonbashi Symphonia ー響きあう多声的な都市像ー』2025




八重洲一丁目北地区市街地再開発事業（2025年10月～2026年3月）
東山詩織『４つの風景（万年青、橋、城門、家・門をくぐる）』 2025




日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業（2025年12月～2026年11月）
木住野彰悟『Bridging Tradition and the Future』 2025



日本橋一丁目１・２番地区第一種市街地再開発事業(2026年7月～2027年5月(予定))
大巻伸嗣『Echoes Infinity - QLAMMVON』2026



八重洲一丁目北地区第一種市街地再開発事業(2026年10月～2027年9月中（予定))
いとう瞳『橋と夢二（呉服橋の記憶、進む時代、”かわいい”の文化、夢二と本）』2026





日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業(2026年11月～2027年11月中（予定)) Photo by Kenji Agata
米村知倫『日本橋通り絵図』2026

参考情報⑤　三井不動産グループのサステナビリティについて

三井不動産グループは、「共生・共存・共創により新たな価値を創出する、そのための挑戦を続ける」という「＆マーク」の理念に基づき、「社会的価値の創出」と「経済的価値の創出」を車の両輪ととらえ、社会的価値を創出することが経済的価値の創出につながり、その経済的価値によって更に大きな社会的価値の創出を実現したいと考えています。

2024年4月の新グループ経営理念策定時、「GROUP MATERIALITY(重点的に取り組む課題)」として、「１．産業競争力への貢献」、「２．環境との共生」、「３．健やか・活力」、「４．安全・安心」、「５．ダイバーシティ＆インクルージョン」、「６．コンプライアンス・ガバナンス」の６つを特定しました。これらのマテリアリティに本業を通じて取組み、サステナビリティに貢献していきます。

【参考】

「グループ長期経営方針」https://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/innovation2030/
「グループマテリアリティ」https://www.mitsuifudosan.co.jp/esg_csr/approach/materiality